レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026年 7月 1日

株式会社　竹下生コン

広島県山県郡北広島町都志見567番地

配合計画者名　寄政　敏雄

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	4月1日～6月20日，9月11日～11月20日，標準配合。左記以外の期間は備考欄に記述。(標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB	
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³	
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低 － ℃	
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %	
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³	
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³	
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰの増大量	－ cm	
	空気量	4.5 %			

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－
混和材②		－		－		

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	加工砂	広島県山県郡北広島町都志見	A	化学法	5mm以下	2.70	－	2.54	－
	②	砕砂	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	5mm以下	2.90	－	2.63	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	40～20mm	7.95	－	2.70	1.0±1.0
	②	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	13～5mm	6.30	－	2.69	1.0±1.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	20～13mm	7.05	－	2.70	1.0±1.0

混和剤①	製品名	ｼｰｶﾋﾞｽｺﾌﾛｰ700Rsure	種類	－	Na_2Oeq % －
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	①0.000%	水の種類	上水道水以外の水（地下水）	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
277	－	－	155	500	333	－	417	260	－	365	2.22	－	－

水セメント比	56.0 %	水結合材比	－ %	細骨材率	45.5 %

備考

骨材混合比（質量混合）	細骨材①：②	60：40
	粗骨材①：④：②	40：35：25

骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。
修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤①の単位量のみ変更いたします。
また、夏期修正標準配合期間内についてはAE減水剤（遅延形）を使用する場合がある。
夏期7月1日～9月10日　C×1.05%、冬期11月21日～3月31日　C×0.55%

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －	
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量		－ kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限		60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限		－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限		－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量		－ cm
	空気量	4.5 %			

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10　%

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 30.0 \ N/mm^2$$

よって　m = 30.0　N/㎟

(3)水セメント比(W/C)　　m = -11.8 + 23.5 × C/W

W/C = 23.5 ÷ (30.0 + 11.8) × 100 = 56.0 % ≦【60%(上限値)】

∴W/C = 56.0　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 155　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C = W ÷ (W/C) × 100 = 155 ÷ 56.0 × 100 = 277　kg/m³

Cv= C ÷ 密度 = 277 ÷ 3.04 = 91　ℓ/m³

(6)空気量(A)　　A = 4.5 % × 1000 = 45　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a = 45.5　%

(8)単位細骨材量(S)　　Sv = (1000 − (W+Cv+A)) × s/a = 709 × 45.5 % = 323　ℓ/m³

S = Sv × 表乾密度 = 323 × 2.58 = 833　kg/m³

S1 = S × 60.0 % = 500　kg/m³

S2 = S × 40.0 % = 333　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　　Gv = 1000 − (W+Cv+Sv+A) = 1000 − 614 = 386　ℓ/m³

G = Gv × 表乾密度 = 386 × 2.70 = 1042　kg/m³

G1 = G × 40.0 % = 417　kg/m³

G2 = G × 25.0 % = 260　kg/m³

G3 = G × 35.0 % = 365　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad = C × 添加率 × 密度 = 277 × 0.80 % × 1.00 = 2.22　kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
277	－	－	155	500	333	－	417	260	－	365	2.22	－	－

水セメント比	56.0 %	細骨材率	45.5 %	骨材混合比(質量混合)	細骨材①：②　60：40 粗骨材①：④：②　40：35：25

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026年 7月 1日

株式会社　竹下生コン

広島県山県郡北広島町都志見567番地

配合計画者名　寄政　敏雄

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	7月1日～9月10日 夏期修正標準配合
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －	
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量		－　kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低	－　℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限		60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限		－　kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限		－　kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量		－　cm
	空気量	4.5 %			

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³ －	Na_2Oeq % －
混和材②		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	加工砂	広島県山県郡北広島町都志見	A	化学法	5mm以下	2.70	－	2.54	－
	②	砕砂	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	5mm以下	2.90	－	2.63	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	40～20mm	7.95	－	2.70	1.0±1.0
	②	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	13～5mm	6.30	－	2.69	1.0±1.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	20～13mm	7.05	－	2.70	1.0±1.0

混和剤①	製品名	ｼｰｶﾋﾞｽｺﾌﾛｰ705Rsure	種類	AE減水剤(遅延形Ⅰ種)	Na_2Oeq % －
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	①0.000%	水の種類	上水道水以外の水（地下水）	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
277	－	－	155	500	333	－	417	260	－	365	2.91	－	－

水セメント比	56.0 %	水結合材比	－ %	細骨材率	45.5 %

備考

骨材混合比（質量混合）		
細骨材①：②	60：40	
粗骨材①：④：②	40：35：25	

骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。
修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤①の単位量のみ変更いたします。
また、夏期修正標準配合期間内についてはAE減水剤（遅延形）を使用する場合がある。
夏期7月1日～9月10日　C×1.05%、冬期11月21日～3月31日　C×0.55%

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －	
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量		－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限		60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限		－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限		－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量		－ cm
	空気量	4.5％			

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v ＝ 10　％

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 30.0 \ N/mm^2$$

よって　m ＝ 30.0　N/㎟

(3)水セメント比(W/C)　　m ＝ -11.8 ＋ 23.5 × C/W

W/C ＝ 23.5 ÷ (30.0 ＋ 11.8) × 100 ＝ 56.0 ％ ≦【60%(上限値)】

∴W/C ＝ 56.0 ％

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W ＝ 155　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C ＝ W ÷ (W/C) × 100 ＝ 155 ÷ 56.0 × 100 ＝ 277　kg/m³

Cv＝ C ÷ 密度 ＝ 277 ÷ 3.04 ＝ 91　ℓ/m³

(6)空気量(A)　　A ＝ 4.5 ％ × 1000 ＝ 45　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a ＝ 45.5 ％

(8)単位細骨材量(S)　　Sv ＝ (1000 － (W＋Cv＋A)) × s/a ＝ 709 × 45.5 ％ ＝ 323　ℓ/m³

S ＝ Sv × 表乾密度 ＝ 323 × 2.58 ＝ 833　kg/m³

S1 ＝ S × 60.0 ％ ＝ 500　kg/m³

S2 ＝ S × 40.0 ％ ＝ 333　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　　Gv ＝ 1000 － (W＋Cv＋Sv＋A) ＝ 1000 － 614 ＝ 386　ℓ/m³

G ＝ Gv × 表乾密度 ＝ 386 × 2.70 ＝ 1042　kg/m³

G1 ＝ G × 40.0 ％ ＝ 417　kg/m³

G2 ＝ G × 25.0 ％ ＝ 260　kg/m³

G3 ＝ G × 35.0 ％ ＝ 365　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad ＝ C × 添加率 × 密度 ＝ 277 × 1.05　％ × 1.00 ＝ 2.91　kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
277	－	－	155	500	333	－	417	260	－	365	2.91	－	－

水セメント比	56.0 ％	細骨材率	45.5 ％	骨材混合比(質量混合)	細骨材①：②　60：40 粗骨材①：④：②　40：35：25

備考